

中高年のひきこもり

中高年のひきこもりが深刻化しています。

内閣府の調査では、自宅に半年以上ひきこもっている40～64歳が推計61万人いるとされています。その親は当然、高齢者。各自治体や支援団体の取組が急がれます。

収入のない50代の子と80代の親が社会的に孤立しています。高齢の親の介護をきっかけに、同居する中高年のひきこもりが見つかるケースが増えてきました。

「働かないといけないのはわかっているけど、動き出せない」

ひきこもり歴が長いだけに容易ではありません。

こんな調査結果もあります。

2018 年度に全国の地域包括支援センターに対して行った調査で、「無職の子供と同居する高齢者の支援経験がある」と回答した割合が8割を超えたそうです。



就職氷河期で働き口を得られなかった世代が親元で生活するうちに、親の高齢化によって収入は年金だけになってしまった、というパターンが考えられます。

もちろん、子供の頃から引きこもっている場合もあるでしょう。

世間体を気にするあまり、だれにも相談できずに孤立してしまうのです。

通学や就労を目標とする若年向けの支援だけでなく、中高年への取り組みが“待ったなし”です。

既に取り組みを始めている自治体もありますが、中高年の就職は若者に比べ困難なだけに、自立は容易ではありません。

仕事や役割を強く求められず、当事者にとって居心地のよい職場を行政主導で作るしかないでしょうか。何よりも社会と繋がっている状況にすることが大切だと思います。

まずは、そこから。